

環境 NEWS (第31回)



全日本サーフキャスティング連盟本部 環境部

情報によりますと、広島県の蠣(カキ)の生育が年々良くなってきたとのこと。

水質汚染がひどかったころは毎年のように赤潮が発生していましたが、排水規制が厳しくなり徐々に海水がきれいになってきました。それはそれで良いことだと思っていましたが、あまりにもきれいになりすぎて、ノリなどの海藻やサカナなどが生育しづらい環境になってしまったそうです。そこで、2023年度から下水処理施設の緩和運転に踏み切った結果、植物プランクトン量が増え、養殖蠣は2年連続で大きく育ったという次第です。

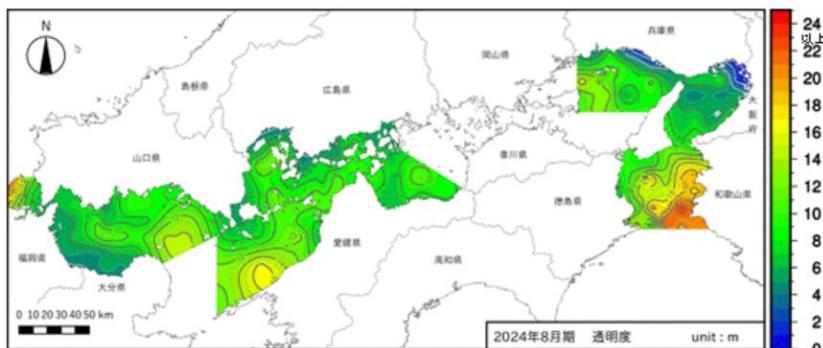
釣りの対象魚も年々獲れなくなってきたなあとは感じていましたが、温暖化だけが獲れない理由ではないとなれば、これから釣果に少し希望がわいてきました。(藁にもすがる思いです)

ただし、ゴミを捨てて海を汚しても良いということではありませんので、お間違えのないように。

水質水平分布図

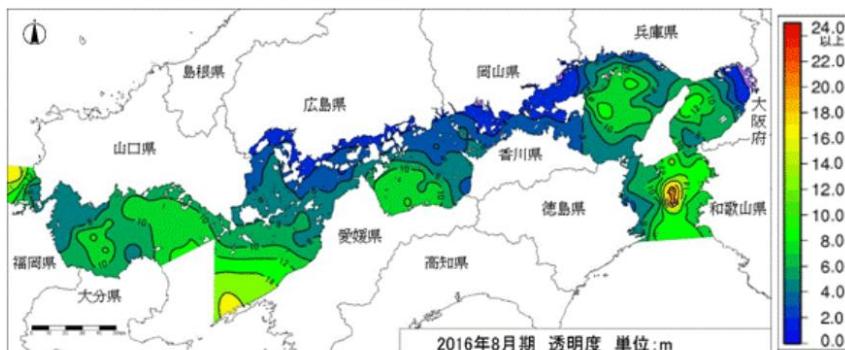
- 調査項目:透明度
- 調査時期:夏季(8月)
- 調査層:上層
- 調査機関:令和6年と平成28年のデータ

水質水平分布図(令和6年)



透明度は、紀伊水道東部、伊予灘、周防灘東部、響灘で高く、大阪湾北部、播磨灘北部、広島湾奥部、周防灘西部で低い傾向がみられます。

水質水平分布図(平成28年)



透明度は、紀伊水道、播磨灘、燧灘、伊予灘、安芸灘南部、周防灘南部で高く、大阪湾北部、播磨灘北部、備讃瀬戸、広島湾奥部、周防灘西部で低くなっています。